

郷土漫筆

高木 誠一

一、警城の修験道
 修験道は明治維新の修験道
 によつて徹底的にたたくた
 ため音のおもかげは全く
 消え去つた。今更には、修
 験道といふものは、いま
 もなく、柳田先生や折口先
 生等によつて既に明らか
 になつてゐる。民間信仰と
 深いつながりを持つ、民衆
 の間に浸透した宗教であつて、
 修験道は吾等無民の歴史を
 知る主要なる資料で、日本
 前代の
 三寶院を本山派は京都の
 三寶院を本山派とした。或
 は羽黒山、九州の本山の
 本山派の中にも、又、
 山伏や僧とされ修行する
 山伏といふものがあつた。
 修験道は吾等無民の歴史を
 知る主要なる資料で、日本
 前代の
 三寶院を本山派は京都の
 三寶院を本山派とした。或
 は羽黒山、九州の本山の
 本山派の中にも、又、
 山伏や僧とされ修行する
 山伏といふものがあつた。

日本刀で乗り込んだ 關口被告の爆弾供述

緊張裡に川徳ら公判開く

平市裁判所川徳和徳(三六)は十一被告の殺人未遂事件第四回公判は廿一日午後二時から地裁平支部で開き、猪狩、棚村三判事合議、高橋検事、永野ほか七辯護人立合ひで開廷した。この日は去る三月十四日裁判長に内閣府取り返す事件として重罪とされている川徳らの日本刀所持の件について従来まで川徳ら被告が木刀しか持つて行かなかつたと云ふ供述をくつがえして被告關口井亮(三三)廿一日七時強盗、短刀などを持つて行つたと認めた。爆弾の供述の上申書によつて再び事實を整理する直前に被告らに有利と見られていたこの事件も關口被告の眞相発表によつて然らば被告らに不利な方向に一轉し終結は緊張の色がみだつた。

辯護側は冒頭に裁判長に對し「今川徳關係の家宅捜査を行つたがなんのために行つたか」と質問。關口の上申書によつて日本刀を所持して、たがが判つたのでこれに便した日本刀が未だ隠とされてゐるものと見られたから」と理由を説明した。後直ちに事實整理に入り、關口の供述調書に移つたが、關口被告から川徳被告の前では話れなると申立てたので裁判長は全被告に一時退庭を命じこれを分断して行つた。先ず事件のきつかけについて詳細に調査した後問題の日本刀の件に移つた。

問「事件當時日本刀を持つていたのは誰と誰か」
 答「はつきり記憶してゐる。川徳、鹿、關口、小答、相手方から取り込まれるような危険な気があつた。その時集つたのは被告全部をまとめて數十名あつた。トラスに乗る前に川徳から白水にゆくと言があつた」

問「川徳はそれの時佐川をど

もまた長い期間を経て、日暮る如く佛敎宗派とも神道といふものもあつた。一種の宗教形態をなせるに至つたのである。したがつてこれまでに、二三の人々によつて試みられた宗教史的方法によつて宗教史の資料によつて修験道の交はる十分の二を捉へることが出来る。民間信仰の修験道は吾等無民の歴史を知る主要なる資料で、日本前代の三寶院を本山派は京都の三寶院を本山派とした。或は羽黒山、九州の本山の本山派の中にも、又、山伏や僧とされ修行する山伏といふものがあつた。修験道は吾等無民の歴史を知る主要なる資料で、日本前代の三寶院を本山派は京都の三寶院を本山派とした。或は羽黒山、九州の本山の本山派の中にも、又、山伏や僧とされ修行する山伏といふものがあつた。

日本刀二振
 高橋検事から押収
 (職)地裁平支部の執行
 より二二日執行された川徳ら
 の殺人未遂事件にかゝる被告
 村田川徳、猪狩、棚村、高橋、
 (五)宅から日本刀二振(一
 尺七寸、一尺七寸、一尺一寸)
 及び刺し指が押収された。

無關係
 本紙記事訂正
 昨報「大日本三本小刀、本押
 收」の見出し記事で、湯本町
 三丁目野田氏宅から押収した
 一尺七寸の日本刀を川徳ら
 「所有と云われる」と書いた
 のは誤りで川徳氏に關係なく
 野田氏の留守宅から押収した
 事と訂正する。

祈禱中盗む
 東白河郡野田村無職野田久
 (三五)は去る七日午後一時
 三十分頃野田村野田井川スガ
 さん(六五)方に於て祈禱中
 の山田村山田山田山田山田
 (二四)さん所有の腕時計(八
 型)及びチャック付カバンな
 ど現金一千二百円相当を盗み
 去り、二十一日勿論捕つた。

乾燥の爲火の元注意
 消防署から要望
 平消防署では数日來平地方を
 吹きまくっている各物カラッ
 風について左の如く要望して
 きておられます。火の元には
 十分注意を願います。

苗代作業は早目に
 気温は平年より高い
 石城地方事務所では
 四月の農業氣象豫想
 の氣 四月の農業氣象豫想
 月業 四月の農業氣象豫想
 四盤 四月の農業氣象豫想

いわざい
 あざみ集
 山下至道子
 處女雪にシニブル印す快き
 置こたつ無人の部屋は明る
 梅咲くやある日の迅き雲走り
 炎ゆる 村田東雄
 山火事は我激情の如くもゆ
 さらさらの地を早春の光け
 硝子割れる音大衆の路にひび
 夢抱いて雪積む里に埋れ住む
 春泥をゆきてははははははは
 雲の隙を霞い立ちける吾妻や
 手をゆくとくき春の音
 渡邊清高
 ありて 野田野太
 ひまわりの咲く頃は貧乏の幸
 三三秋子
 寒風野郎と共にかたむけ
 大内千賀志
 「ホイ」と呼ばはははははは
 酒井千枝
 日向は語れば永く去る姉と
 吉本令女

各種 運動具 湯田商會
 精工舎の時計
 山登園のお茶
 世界第一の縫衣機
 春が来る! 鈴藤
 最新流行服は 銘木
 伝統性能二輝ク 湯田商會